

土壌消毒と生物防除による施設野菜花きの土壌病害の克服

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
九州沖縄農業研究センター 西村 範夫

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

西南暖地の施設を利用した野菜花きの周年栽培では、土壌病害防除に燻蒸消毒が多用されており、土壌消毒回数の削減、過酷な夏季の消毒と臭化メチル剤全廃に伴う冬季の消毒問題の回避が課題となっている。このため、土壌消毒と生物防除の複合防除技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① サラダナ根腐病の防除技術の開発 ((独)九州沖縄農業研究センター)
サラダナ根腐病を対象にして土壌消毒法の改善と生物防除技術の開発を行う。
- ② メロン黒点根腐病の防除技術の開発 (宮崎県総合農業試験場)
メロン黒点根腐病を対象にして土壌消毒法の改善と生物防除技術の開発を行う。
- ③ 土壌微生物相復活過程の解明と発病抑止性の誘導 ((独)農業環境技術研究所)
土壌消毒後の微生物相復活過程を分子生物学的に解析し、病原菌の増殖と発病を抑止する微生物を分離する。
- ④ 有用微生物の製剤化 (片倉チッカリン(株)筑波総合研究所)
発病を抑制する有用微生物を製剤化する。

5 目標とする成果

サラダナ根腐病及びメロン黒点根腐病を対象にして、年2, 3回の土壌消毒を1回に削減できる土壌消毒と生物防除の複合防除技術が開発される。これにより、産地の維持、夏季と冬季の消毒問題の回避、他の土壌病害の被害軽減が期待される。